

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 喜 2	評価実施年月日	平成21年2月25日
評価実施構成員氏名	伊東、笠本、山本、平田、石坂		
記録者氏名	伊東 敏子	記録年月日	平成21年2月28日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>感謝と敬意の気持ちで長寿のお手伝いをさせていただく等の運営理念を尊重し、経営者、施設長、職員が一丸となり努力しています。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念をよく理解して日常業務に取り組んでいます。新規採用者には、運営理念を深く認識して業務に励んでもらっています。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ホームの行事を通じて、地域の方にはご理解を賜り、ご家族には面会を通じ、ご理解いただいております。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近所の方々には気軽に立ち寄れるような家庭菜園や日本庭園を解放し、ふれあいを大切にしています。</p>	○	<p>近隣の人に楽しんでもらうために桜が満開になる時期にはライトアップ等もしていきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入して夏祭り行事に参加をして交流を深めるほかホームの夏祭りには多くの方々に来場いただくなど交流がある。</p>	○	<p>これまで以上に地域の行事等に利用者・職員が積極的に参加していきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>町内会の廃品回収に協力している。</p>	○	<p>特にダンボール類等収集し協力している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価・外部評価の重要性を認識しつつも具体化されていない。</p>	○	全職員が意見を出し合い評価を活用した取り組みを実践したい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>地域の人等から意見を聞いているがサービスの向上につながるかは、これからの課題である。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>施設長又は管理者が疑問点や不安な点がある時は、積極的に関係機関へ足を運び意見や指導を受ける関係を作っている。</p>	○	今後もこれまで以上に取り組みを展開したい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在までに成年後見人制度の利用者はなし。</p>	○	研修会へ今後は職員を参加させていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>職員会議やミーティングを通じて職員同士小さな事でも注意しあい虐待防止に努めている。</p>	○	虐待防止について、職員がこれまで以上に理解を深めお互いに注意しあい防止に努めて行きたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時にホームの理念や重要事項の説明については施設長又は管理者が入居者家族に説明している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せるようにする。ご意見箱を設置している。	○	今後は意見・要望等のアンケート調査も実施したい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動については、面会時等に個々に合わせた報告をしている。又健康状態について少しでも異常があれば、家族への報告を行なっている。	○	定期的に「たより」の発行をしていきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の意見、不満、苦情を施設長や管理者が中心に聞き全職員に伝え話し合い対応する。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議等を通じて職員の意見や提案を聞く機会を幅広く設けている。		常に自由に意見が言いやすい職場環境作りに努めたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者本位の生活実現する為職員の意見を聞き調節する。	○	今後利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるように必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努める。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者との馴染みの関係の重要性を重んじて離職者が出た時は、時間をかけて対応し、配慮している。	○	異動や離職を必要最小限に抑える努力をしているが、代わる場合が多く定着できるように配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 グループホーム研修会への参加やその他講演会へ職員を参加させている。	○	今後もこれまで以上に取り組みを展開したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 包括支援センターやグループホーム研究会等で交流を深めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 休暇などの希望は取り入れている。また、職員の親睦の場を年に数回設けている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。 運営者が職員の業務や意見を把握し、意欲をもって働ける環境作りに努めている。	○	前年度の個々の職員の自己評価を基に今年度の年間目標を設定し業務を推進して行く。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 管理者が事前に面談し生活状況を把握、利用者・家族と一緒に来所していただき不安のないようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 入居者や家族が不安のないように十分話し合い信頼関係を築けるように努めている。	○	これまで同様話し合いの機会を多くもうけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族が何を求めているのか、現状を確認し十分に話し合い改善に向けた支援を心かけている。	○	本人、家族、施設がこれまで以上に情報の共有に努める。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設長管理者及び職員は丁寧な態度で接して急がず、見守り、他の入居者に少しずつ馴染めるように安心して生活できるよう対応している。	○	積極的に職員が利用者に話しかけ、その場の雰囲気作りに努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	運営理念を基本と一緒に作業したり、教えていただきながら関係作りに努めている。	○	当施設の運営理念である感謝と敬意の気持ちを大切に関係作りに努めていく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホームの行事へ家族も積極的に参加していただき入居者の状況を理解してもらい一緒に支え合う関係作りに努めている。	○	ホームの行事を家族の参加しやすい休日にできるだけ実施するようにしたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人及び家族の話を聞く事で理解を深め、よりよい関係を築けるように努めている。	○	家族が来所した時には職員も一緒になって、話し合う機会を多く持つように心掛ける。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	麻雀等のボランティアは歓迎している。高齢のため馴染みの方の行き来が少なくなっている。	○	今後もボランティアとの交流を多く図りたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が事前に利用者同士の関係を把握し、孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合うため声かけをしている。	○	特定のグループができない様に食事等の席替等にも気を付ける。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院等により退所される利用者へ御見舞いなどに行く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	無理時をせず思いやりや意向を把握し、意思疎通が困難な場合は家族より情報提供いただいている。	○	温室や花壇を利用して趣味の支援に取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前後に本人や家族等から情報提供いただいています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	1日の過ごし方のリズムを把握して、家族等から聞いて今の生活に生かせるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	状況の変化に応じて介護計画への見直しを行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	職員の申し送り等で情報を共有して、本人・家族の要望を聞き入れ状況に即した計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子をファイル及び連絡ノートへ記入して職員で情報を共有して介護計画に反映している。	○	個人ごとのファイルを見やすくまとめ必要時の対応がスムーズに行なわれるように工夫する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族が面会に来所された時等に一緒に食事や要望があれば宿泊も出来る様に対応しており通院や送迎などに柔軟に対応している。	○	空きスペースやカラオケ機械を地域のサークル等に開放していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して生活できるよう消防・警察・町内会・ボランティア等に協力を要請している。	○	今後も必要に応じて、民生委員やボランティア消防・警察・町内会等に協力しながら支援して行きたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者の状況や希望に応じ、他の各施設関係者と協力を築いている。	○	必要に応じて、支援して行きたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センター等で情報交換、協力を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	入所前からかかっている病院やホームの主治医の往診を月に1回受けており気軽に相談できる関係を保っている。	○	これまで以上に連携を密にしていきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	日常生活状況を主治医に報告・相談し指示を受けて治療が受けられるように支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームに看護師が週に1回訪問看護に来所されており健康管理や状況変化に応じた支援をしている。	○	これまで以上に訪問看護師との連携を密にしていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族・病院と情報交換し早期に退院できるように支援や体制を築いている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時の契約にケアの方針を記載しており、同意書を交わす対応する。終末ケアについても説明を行なっている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族や主治医とその都度話し合い、家族と納得のいく支援を努めている。急変した場合も主治医との連携を図り対応している。	○	細い観察に努め、病状の急変に対応していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>家族及び本人に関わる事項を職員及び関係者間で話し合いや情報交換を行ない、ダメージを防ぐことに努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者のプライバシーを損ねないように言葉かけや個人情報の取り扱いを全職員が対応に注意するよう心かけている。</p>	○	<p>職員同士でも注意し合える体制を築いていく。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の意思を尊重し、自己決定ができるように支援する。自己決定のできない入居者には表情や動作で読み取り支援する。</p>	○	<p>思いや希望が表に表せるような言葉かけや対応・説明を行ない、自分で決めたり納得しながら生活できるように取り組んでいきたい。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員のペースではなく本人の意向を尊重し、敬意の気持ちでできることやできないことを引き出し支えて、お手伝いしながら生活を送れるように努めている。</p>	○	<p>職員側の決まりや都合を優先することもあるため希望に今後はできるだけ沿って支援できるように改善していきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>その人らしい生活習慣に合わせてできるだけ希望に沿った生活支援を行なっている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>旬の食材を使い季節感を味わえるように努めている。</p>	○	<p>利用者の健康状態に応じた食事内容に配慮したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	病気や医師の指示がない限りは、希望に沿うように努め、たばこは喫煙所を設けている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排せつチェック表に記入して排せつパターンを知り、習慣を活かしてトイレでの排せつをできるように支援している。	○	排せつがしばらくしない場合は主治医と相談して薬の服用などの対応を行わないたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には週2回、午後からと決まっている。	○	週2回入浴日を設けているが曜日や時間帯を職員の都合で決めていることもあり体調や気温などの状況を配慮して入浴を楽しめるように検討する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その日の体調に合わせて休息、日中活動を整えている。眠れない時は言葉かけなどを行っている。	○	できるだけ話し相手になるように心掛ける。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	体調や気分状況を見極め、日常生活の中で掃除・調理の手伝いをしていただき、気分転換に散歩をするなどして支援する。	○	ボランティアを活用した麻雀やカラオケ等を行なう他、花壇の手入れ当番等も行なっていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができない人や等には、それぞれの方に応じた支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望があれば一緒に買物へ出かけたり天気の良い日は、声をかけて散歩などしている。	○	できるだけ、その日の希望にそって、出かけられるように家族の意見を聞きながら支援していきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	近隣町村等へ外出の機会を作り季節感を味わっている。	○	農作物・果樹などの収穫体験を実施したい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人より希望があれば、家族の協力を得ながら電話でのやり取りができるよう機会を作り支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	都合のよい時間帯に家族の協力を得ながら訪問の機会を作り、居室や娯楽室等の利用を希望に沿って支援している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	見守りを基本としているが、自覚のしない身体拘束・介護の振り返りを確認している。		今後職員を研修に参加させて、正しい理解をしていきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室には鍵をかけていないが、玄関は構造上鍵をかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら、声かけ等して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	居室で過ごされている方はノックをして声かけし安全確認を行なっている。夜間は巡回時等に訪問して安否の確認を行なっている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	万が一事故が発生している場合には、対応した職員を中心にカンファレンスを行ない今後の事故予防対策については検討して家族へ連絡説明を行なっている。	○	行方不明時の初期捜査に必要な利用者のその他の服装について日頃から観察訓練をしている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防士による救急救命の講習を受けており、救急連絡網に対応している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練を行ない昼夜を問わず入居者が安全に避難できるようにしている。隣接の宿泊施設等に協力いただいている。	○	特に冬期間な避難通路確保に注意している。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	家族へ暮らし方やホームの取り組みを理解が得られるように説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック測定や状態の観察を行ない早期発見に努め異常がある時は、訪問看護へ連絡や主治医へ受診する。	○	これまでに訪問看護・主治医と連絡を密にしてい
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方内容が変更になった場合でも職員が服薬に関する情報を共有している。内服は介助で確認している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排せつチェック表に記入して排せつパターンを知り、毎日行なっているラジオ体操を通じて体を動かし排便をできるように対応している。	○	便秘が長く続くようであれば主治医と相談として対応してい
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔内の清潔保持の為にうがいや義歯洗浄を行ない口の中の汚れや匂いが生じないように支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取状況をチェック表に記入している。栄養バランスなどについては、なるべく野菜を多く取り入れている。	○	食事量・水分摂取量が少ない場合には、主治医・訪問看護と相談して対応する。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防の為にたけクリーン消毒液で手や手すりを消毒したりせきやくしゃみをしている方にはマスクを着用していただいている。入居者には、インフルエンザの予防接種をしていただいている。	○	来所者には必ず消毒液の使用をお願いしてい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理の経験ある方を配置し、衛生管理に努めており食材を保存している冷蔵庫については管理点検を頻繁に行なっている。	○	これまで以上に食の安全に配慮したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	広めのスペースを確保しており、花を飾るなどの工夫をして、気軽に来られるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間に生活観があり、大きなテラスには開放感が満喫できて季節の移り変わりが楽しめる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気分転換できるように一人になれる居場所が確保され、居室以外でもゆっくりできる空間を作り工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真や使い慣れた家族などを持ち込み、居心地の良さに配慮している。	○	これまで以上に家庭環境の延長が保てるように配慮したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	職員が各居室に設置している温度計をチェックして適温になるように調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	手すりを設置して、利用者が自由に行動できるよう安全確保とマッサージ器を設置し、リハビリへ配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者の状況に合わせて環境整備に努めたり、不安や混乱が生じた時は、職員で同じケアをしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	テラスに椅子をおいてひなたぼっこや涼んだり、家庭菜園や池には金魚を飼うなどして生活できるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない	①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	②

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)利用者を自分の家族と思い家庭の延長として安心、安全にやすらぎのある生活が送れるように取り組んでいる。